

職員が聞いた つぶやき

わたしたちが地域のいろいろな方のお話を聞かせていただく中で、聞こえてきた「つぶやき」をご紹介します。「つぶやき」は、どうにかしたい、こうなったらいいなどの想いの現れ。地域をよくしていくための芽のようなものと思います。簡単に変えていけるものではないけれど、少しでも皆さんの幸せにつながる方法はないか、わたしたちも一緒に考えさせていただきたいと思っています。

地区の団結力がなくなった。集まりに来る人も少なくなった。

伝統行事に参加する家が減ってしまった。なんとか伝統を伝えていきたい。

交通が不便で、お祭りや運動会に行きたくても行けない…。

この地区に移住してくる人がいればいいなあ…。空き家もあるし。

知識や経験が豊富なお年寄りの声に、もう少し耳を傾けてほしい。

あなたのお力貸してください！

このかわら版は、皆さんからお聞きした情報をもとに作っています。旭にこんな素晴らしいものがある、がんばっている人がいる、きれいな景色があるなど、情報がございましたら、ぜひお寄せください。

また、かわら版の作成に協力してくださる方も大歓迎です。そのほか、地域をよくしていくためのアイデアやご提案をお持ちの方もどうぞご連絡ください。

連絡先：協働のまちづくり推進課（担当 大河原）
TEL0229-63-3215 FAX0229-63-2037

編集後記

わたしたち役場の「協働のまちづくり推進課」が、旭地区の皆さんにお話を伺うことを始めて、約半年が過ぎました。少しずつ顔を覚えていただけて、声をかけていただく機会も出てきました。本当にうれしい限りです。とはいえ、多くの方にとってはまだまだ知られていない存在のわたしたち。今後でもできるだけ地区に通って、皆さんからお話を伺う機会を作りたいと思っています。

今回は、雪まつりや裸カセドリなどの行事にも参加させていただき、皆さんがいきいきと活躍される姿をたくさん拝見できました。行く場所場所でわたしたちを快く迎えてくださるあたたかさ、厳しいけれど豊かな自然、お年寄りの知識や経験、そして女性や若い方々のパワー。皆さんにお会いするたびに、素晴らしい宝が見つかります。それをどのように生かして、どのような地域を目指していくか…。すぐに答えが出るものではありませんが、わたしたちも皆さんと一緒に考えさせていただきたいです。これからも、どうぞよろしくお祈りいたします。

ヤクバ職員が見て、聞いて、教わった旭。

旭かわら版 第2号

発行：加美町協働のまちづくり推進課
発行日：平成29年3月31日
連絡先：〒981-4292
加美町字西田三番5番地
TEL：0229-63-3215
FAX：0229-63-2037
E-mail：kyodo-matidukuri@town.kami.miyagi.jp



楽しい宝さがし

2月12日、わたしたちは旭地区雪まつり（雪上運動会）へ参加させていただきました。当日は雪が降ったりやんだり、気温も低く凍えそうな天候。そんな中、総勢122名の参加者は、元気に雪の中をかけ回りました。この日は旭地区外に住んでいるお子さんやお孫さんもたくさんいらっしゃって、参加者は年々増えているそうです。

種目はプラスチック製のかんじきを履いて競争する「かんじきレース」、肥料袋にわらを詰めた特製そりを使った「そりレース」、雪だるまに見立てたペットボトルに雪玉を当てる「雪だるま落とし」、旧宮崎町ならではの「雪上綱引き」、雪の中に散らばったお宝を探す「宝探し」の5種目。特に宝探しは子どもから大人までみんな真剣！拾った宝に喜んだりがっかりしたり、会場には笑い声があふれていました。

たくさん体を動かした後は、お母さん方手作りの豚汁とおにぎりに舌鼓を打ちました。冷えきった体に野菜たっぷりの豚汁が沁みること、沁みること。また、

西原地区のかかもクラブがその場で焼いた鴨の焼肉は、子どもたちにも大人気でした。進行役をされていた長沼さんと島山さんに、とても楽しかったと伝えたところ「夏祭りも盛り上がるんだよ。」とのこと。役員の方々を中心に、準備から進行まで楽しみながら進めている様子が目に浮かびました。「楽しい」をみんなで分かち合うこと。それが旭地区の魅力につながっているんですね。



「鴨肉おいしいね」

南永志田 ミニデイ



平成28年12月12日、南永志田2集会所で行われた南永志田のミニデイに参加しました。参加者は15名で、わたしたちを温かく迎えてくださいました。

まずは、皆さんの趣味や特技をお聞きしました。副区長さんは野菜作りのベテランで、米・大豆・ししとう・キャベツなどを作っているそうです。中でもキャベツは参加者の皆さんからも好評で、肉厚で甘くてとっても美味しいとのこと。そのほかには、骨董品、特に日本刀を集めるのが好きな方、ピンポンが好きで、数人で集まって週1回練習をしている方もいらっしゃいました。こんなふうにいそいそと趣味などを楽しんで、出会う人とのつながりを大切にされているのは素敵ですね。

また、皆さんに南永志田の昔の暮らしについてもお聞きしました。子どもの頃の遊び場は、現在の集会所の前にあった原っぱで、小中学生が集まってビー玉、ぼった(メンコ)、ぼっこび(馬跳び)などをして遊んでいたそうです。冬は台の原でスキーやそりをしていました。スキー靴がないので長靴ですべっていたこと、スキー板がない時代は、すべりの良い桜の板でスキーを作っていたという話は初めて知りました。

わたしたちからの質問に、昔を思い出しながら楽しそうにお話してくださる皆さんの姿が印象的でした。南永志田の皆さん、どうもありがとうございました。



切込の 裸カセドリ



平成29年2月11日夜、切込地区の伝統行事で、宮城県指定無形民俗文化財にも指定されている「切込の裸カセドリ」が行われました。火伏せ、豊作祈願、厄除け、15歳以上男子が参加する成人儀礼などの意味をもつ小正月行事です。

夜7時頃、今回の「宿前」(スタートのお宅)である檜野さん宅では、10人の男衆が晒と腹巻姿に着替え始めました。顔や手にヘソビ(釜のすす)を真っ黒に塗ることで、男衆は「神の化身」に変わります。日本酒で乾杯をしたら、さあ出発!まずは「ご祝儀!」と言いながら、その場にいる人みんなの顔にヘソビを塗りつけます。おばあちゃんも赤ちゃんも例外なし。わたしたちも、たくさんご祝儀をいただいて、顔が真っ黒になりました。ヘソビをつけられた人は厄が払われると言われていました。

その後男衆は、藁ボッチ(藁を2束結んだもの)を頭にかぶり、腰にしめ縄をつけて外に駆け出していくのですが、宿前を出るときに勢いよく水がかけ

られます。2月の寒空にはほぼ裸で水をかけられるなんて、見ていただけでも凍えそうですが、行事のなかで最も熱気をおびる場面です。男衆は濡れた藁ボッチを脱ぎ捨て、「ホーホー」と声をあげながら集落の家々を訪れ、ヘソビをつけて回ります。

昔は、不幸があった家以外、集落のほとんどの家を回っていたようですが、次第に参加する家が減り、今年はとうとう2軒だけになりました。「絶対にこの行事を絶やしたくない。」檜野さんの強い言葉が深く胸の中に残りました。



憩いの部屋 料理教室



平成28年12月13日、旭地区公民館で行われた「憩いの部屋」の料理教室に参加しました。「憩いの部屋」は、60~80代女性の集まりで、活動は年6回。料理教室のほか県内外への移動研修も行っているそうです。

当日は、わたしたちも12名の皆さんと一緒に調理を楽しみました。午前10時から2時間で4品を作りましたが、中でも「マンモス肉バーグ」の豪快な作り方にはびっくり!ゴボウを芯にしてラクビーボール形のハンバーグを作り、豚バラ肉をぐるぐる巻きつけて焼き上げます。



どう作っていいか相談中



ワイワイ協力して作ります



伊達巻
おつまみおにぎり



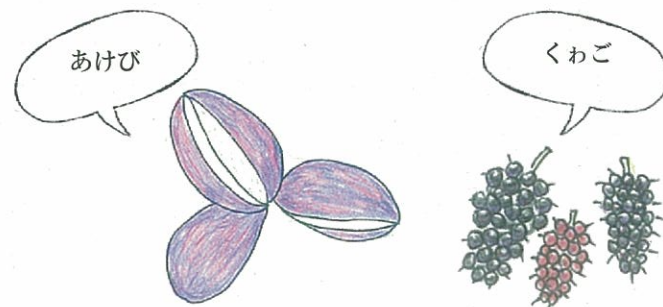
マンモス肉バーグ
栗きんとん

最後に皆さんで試食をしました。「美味しい」「レシピを勉強してまた作りたい」といった感想のほか、「憩いの部屋に来れば、みんなと会って話せて、とても元気が出る」と話す参加者の方もいらっしゃいました。憩いの部屋のように、仲間と一緒に活動したり、話したりできる場があるのはとても良いことですね。皆さんとても親切に接してくださり、にぎやかな雰囲気の中で楽しく参加させていただきました。憩いの部屋の皆さん、どうもありがとうございました。

切込ミニデイ

平成29年2月9日、ゆ〜らんどで行われた切込のミニデイに参加させていただき、参加者13名の皆さんに、昔の思い出や切込のよいところなどを伺いました。

子どもの頃の遊びについてお聞きしたところ、家の近くになっている木の実などを採って食べるのが遊びだったとのこと。「昔はおやつなんかなかったから…」とおっしゃるのですが、食べていた種類の豊富さに驚きました。くわご(桑の実)、ぐみ、ばらいちご…。あけびがたくさん実るので通称「あけび沢」と呼ばれる沢もあったそうです。切込がいかに自然豊かな場所かわかるお話でした。



昔は、隣近所に子どもがたくさんいたそうで、一軒につき子どもが10人いることもあったそうです。野球やたまごぶち(ビー玉を使った遊び)をしたり、夏には川で泳いだり、みんなで遊んだ思い出を楽しく聞かせていただきました。

しかし、湯の倉鉱山閉山にともなって、そこで働いていたたくさんの人たちが地区を出ていきました。今は子どもが少なくなったと、皆さん口をそろえます。知識や経験が豊富な皆さんのこと、子どもたちに伝えたいことはたくさんあるけれど、子どもが少ないのが残念とお話でした。移住する人がいればなあ…。とおっしゃる方もいました。子どもたちや若い人が少ないこと、これは大きな課題であり、わたしたちも真剣に考えていかなければならないと感じました。切込の皆さん、ありがとうございました。

